

「私たちの十五歳の頃」

東日本大震災から5年目に入ります。私たちの住む会津地域には双葉郡から多くの人が避難してきました。私たちは、生まれた土地に育ち住んでいます。いま避難している人には、「ふるさと」はまだまだ遠くにあります。

今回、大熊町地域学習応援協議会の事業として、大熊のみなさんの十五歳のころを聞き書きしました。それは、大熊の子どもたちに地域の事、そこに住んできた「思い」を理解して欲しかったからです。

この事業は、会津大学短期大学部の学生と、特定非営利活動法人寺子屋方丈舎のスタッフが聞き書きを行いました。大熊の子どもたち、そして、地域のみなさんの何らかの記録になれば幸いです。

主催…大熊町地域学習応援協議会

2014年(平成26年度)文部科学省

学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業(委託事業)



語り手
小泉昌弘さん
(58歳・下野士2区)

のびのびすごした子ども時代

2011年3月末まで富岡消防署の仕事をして、退職後、会津に来ました。父は浪江生まれで大熊に婿にきて、私は高校卒業するまでは大熊に住んでいました。

10代の頃は、「原子力センター」に遊びにいったり、熊川で遊んで魚とりをしましたね。海との河口あたりには魚をとる築場がありました。チャンバラごっこや、ビー玉もやりましたね。その頃の

います。

小学生の頃は車がまだなく、移動するのもモノを運ぶのも自転車かリヤカー。車(トラック)を買ったのが昭和47年ぐらい。今は一人一台クルマを持っている。贅沢な時代です。

私の時代は大熊町内に中学校が2校あったんですよ。熊町小学校から来る人もいて、にぎやかでした。私は中学校のクラブ活動で野球を、高校では重量挙げをやりました。

高校の選択は、ウチが農家だったので、疑問もなく農業高校へゆこうと思っていました。あの当時は、そういうのがあたり前だったんですね。その頃は結(ゆい)もあって、田んぼにガジで線を引いて、手作業で田植えをしていました。高校へは汽車で通っていました。通学時間は1時間ぐらいかな。実習で、牛の餌のデーントコーンの刈り取りを手でやったのを覚えています。高校の販売実

大野小学校はたしか3クラスぐらいで、学校がおわると、みんなと一緒に仲良く遊んでましたね。

小学校の頃、自転車買ってもらって、うれしくて隣町(富岡町)まで行ったりしていました。海も自転車で泳ぎにいきました。プールなんてなかったんじゃないかな。運動会の練習で汗かいたら川に泳ぎに行っていました。秋には落ち穂拾いに学校のみなで行って、お金にしてみましたね。学校自体もおおらかでじつに良かった。放課後もまっすぐは家に帰らない(笑)。山に薪ひろいにもいきました。あの頃はだるまストーブでしたね。

芋煮会も河原でやりましたね。遠足は夜ノ森公園にいきました。一番は浪江の十日市に行くのが楽しみでした。当時の私とって浪江に行くことは、『都会にゆく』という感覚でした。サーカスを見に行ったり、服を買ってもらったことを覚えて

習では、野菜を売りに行ったりしました。楽しかったですね。

この頃に自転車からバイクにステップアップしました(笑)16歳になってじいちゃんに中古で350ccのバイクを買ってもらい、日曜日になるとツーリングです。郡山まで行ったり遠くはスカイラインまで行きました。今でもバイクに乗っています。唯一続いている趣味ですね。

あの頃の親たちは忙しくてとても子どもにかまっていなかったですね。ウチも両親は農業、出稼ぎで忙しかったけれど、雪が降らない、自然がゆたかな大熊は、暮らしやすかったです。



聞き手
江川和弥さん
(NPO法人寺子屋方丈舎)

子どもの頃の風景はだれにとっても大切な財産。移動の大変さが都会へのあこがれを強めたのだと思います。